

事業報告令和5年度 教育事業 信州高遠ボランティア養成研修

【対象】高校生・大学生・社会人
【場所】国立信州高遠青少年自然の家

1. 趣旨

青少年教育施設のボランティアの役割を理解し、必要な知識・技能を習得する。自然の中で活動する楽しさを味わい、仲間と協働した学びあいから、ボランティア活動に対する意欲を高め、社会に貢献できる人材を育成する。

2. 事業の概要

- (1) 期日 令和5年6月3日(土)～4日(日)
- (2) ①参加者 27人 (新規ボランティア 23名、法人ボランティア4名)
②内訳 高校生6名、大学生21名
- (3) 日程

6/3 (土)	新規ボランティア														
	10:10	10:30	10:50	11:50	12:40	14:10	14:20	16:20	16:30	17:00	17:20	18:00	19:00	21:00	22:00
	受付	開 会 式	自然の家って どんなところ?	昼 食	ボランティアの 役割とは	昼のプログラムを 体験してみよう		青 少 年 の 今 ①	つ ど い	夕 食	青 少 年 の 今②	夜のプログラムを 体験してみよう	入浴	就 寝	
	現役ボランティア														
新規ボランティアと同日程															

6/4 (日)	新規ボランティア											
	7:00	7:20	8:00	9:00	12:00	13:00	15:00	15:30				
	つ ど い	朝 食	清 掃	安全管理の 知識と技能を身に付けよう	昼 食	信州高遠の ボランティア について学ぼう	閉 会 式	解 散				
	現役ボランティア											
7:00 7:20 8:00 9:00 12:00 13:00 15:00 15:30												
つ ど い	朝 食	清 掃	プレゼン力を スキルアップ!	昼 食	プ レ ゼ ン 披 露	新規ボラン ティアと同 日程	閉 会 式	解 散				

(4) 企画運営のポイント

- ・経験豊富な講師をお招きし、事業の趣旨や当施設の特徴を踏まえた上で、多様な自然体験活動を実施する。参加者は自然体験活動を体験することを通して、ボランティアとして必要な知識や技能を習得するとともに、ボランティア活動に対する意欲を高める。
- ・法人ボランティアから新規ボランティアに向けて、ボランティアの活動やその魅力を発信する場を設けることで、新規ボランティアがボランティア活動について知り、活動への参加の意欲を高める。

(5) 参加者の声 (一部抜粋)

<趣旨に関する質問>

「ボランティアの役割とはどのようなものだと考えますか？」

- ・子どもたちに限らず、いろいろな人の学びや成長のお手伝いをさせていただく役割。
- ・成長を共に喜んだり、後ろから見守ったり、どの立場にいるかは違っても、子どもたちと一緒に成長できる。
- ・子どもの手助けをしたり、活動に参加したりすることを通して、自分自身もさらに学び成長し、周りにも影響をあたえること。

「今回の研修を受けて、社会に貢献できる（役立たせることができる）と思ったことを教えてください。」

- ・救急方法を知ることができて、いざというときには勇気を出して助けてみようと思うことができた。
- ・生涯教育の大切さを体験しながら、子どもたちを中心に伝えることができる。
- ・自然の中での活動を考えることや、青少年教育施設の特徴を活用できるようにすること。また、人とのかわり方や人と人の繋げ方。

<各プログラムについて>

- ・子どもとのかわり方、導き方、サポートの仕方や一人一人への違った接し方など、子どもについてたくさん知ることができた。
- ・子どもたちが主体となって『やりたい』という思いをもって活動するためにはどうすればいいか、自分なりに考えることができた。
- ・AED 使用の手順や回復体位などについて状況ごとに教えてくださって、ボランティアの活動だけでなく、日常中にも生きることだなと感じた。
- ・症状が出始めてからの対処も大事ですが、熱中症を予防するためには日頃の生活習慣や水分・栄養補給が大切だということ学んだ。
- ・どのように子どもたちと一緒に事業を行っているかをつかむことができた。たくさんのキャンプがあることを知ったので、これからたくさん参加したいと思った。
- ・現役ボランティアの皆さんはすごく元気で、実際の活動は楽しそうだな！参加したいな！と思った。

<活動の様子>

【青少年教育施設の現状と運営】



【ボランティア活動の技術①】



【ボランティア活動の技術②】



【ボランティア活動の技術③】



【ボランティア活動の意義】



【安全管理①】



【安全管理②】



【青少年教育施設におけるボランティア活動①】



【青少年教育施設におけるボランティア活動②】



(6) 成果と課題

①参加者アンケート結果 アンケート回収19名(回収率70%)

ボランティア養成研修全体を通して	満足：18名	95%
	やや満足：1名	5%
	やや不満：0名	0%
	やや不満：0名	0%

②成果

- ・対話的な自然体験活動を数多く取り入れたことで、参加者は自然体験活動の楽しさやよさを味わいながら、その意味や役割を深く学ぶことができた。
- ・様々なプログラムやグループでの話し合い、法人ボランティアの姿や助言から、参加者(新規ボランティア)は事業の趣旨にある「ボランティアの役割」や「社会に貢献できること」を考えることができた。
- ・法人ボランティアが「信州高遠ボランティア活動とその魅力」を、プレゼンテーションや寸劇などを用いて紹介したことで、新規ボランティアはボランティア活動への展望や教育事業への参加意欲を高めることができた。
- ・昨年度から高校生の参加が徐々に増えていることに加えて、様々な大学・学部・学科の大学生、社会人の方も参加の意思を示している。ボランティア同士にとっても、施設職員にとっても、様々な立場から教育事業を作り上げたり見つめたりすることができるため、この状況を継続できるように次年度以降も広報に取り組んでいきたい。

③課題

- ・事業開催直前の大雨による公共交通機関や道路への影響があり、急な不参加者もあった。当日も開始時刻が遅れ、開会式の時間を短縮することになり、オリエンテーションで必要なことを整理できないまま、その後の日程を進めることになってしまった。このような状況に対応できるように、参加者に伝えるべき優先事項を整理してしっかりと伝え、事業に臨む必要がある。